

令和5年生駒市教育委員会第10回定例会会議録

1 日 時 令和5年10月23日(月) 午前9時30分～午前10時25分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第15号 臨時代理につき承認を求めることについて(令和5年生駒市議会第4回(9月)定例会提出議案の意見について)
- (2) 報告第16号 令和5年生駒市議会第4回(9月)定例会提出議案の結果について
- (3) 議案第25号 壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画の策定について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	レイノルズあい	委 員	伊 藤 智 子
委員	古 島 尚 弥	委 員	中 川 義 三
委員	吉 尾 典 子		

5 事務局職員出席者

教育こども部長	鎌 田 明 年	生涯学習部長	八 重 史 子
教育こども部次長	松 田 悟	教育総務課長	山 本 英 樹
教育総務課課長	松 本 芳 樹	教育指導課長	花 山 浩 一
幼保こども園課長	大 畑 勝 士	幼保こども園課指導主事	湯 川 祐 美 子
こども総務課長	武 元 一 真	子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂
生涯学習課長	清 水 紀 子	図書館長	西 野 貴 子
図書館課課長	錦 好 見	スポーツ振興課長	西 政 仁
教育総務課課長補佐	桐 坂 昇 司	教育指導課課長補佐	中 田 博 久
教育政策室長	日 高 興 人	幼保こども園課課長補佐	小 林 奈 津 子
こどもサポートセンター所長	若 狭 美 登 里	図書館南分館長	谷 江 真 美 子
スポーツ振興課課長補佐	大 畑 由 紀	教育総務課(書記)	佐 竹 裕 介
教育総務課(書記)	吉 川 優 香		

6 傍聴者 1名

○開会宣告

○日程第1 前回会議録の承認

○日程第2 教育長報告

・令和5年度市立中学校卒業式の日程について、花山教育指導課長から説明

<参照：資料1>

(質疑)なし

・令和4年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」結果の概要について、花山教育指導課長から説明

<参照：資料2>

(質疑)

古島委員：資料2の「2 いじめの認知件数の状況」について、未然に防ぐという意識から、毎年軽微なものも含めて報告してもらっていると認識している。その中で、重大な案件や今でも対応が続いているような長期的に対応した案件はあるか。

花山課長：現在把握している中で、いじめによる重大事案はない。何かあれば都度、学校と教育委員会とで相談しながら対応している。今後もそのように進めていきたい。

古島委員：現在進行形ではないとのことであるが、この1年間で対応がかなり難しかったことや重たい事案はあったか。

花山課長：どの案件も、学校と一緒に協力しながら解決の方向に向けて進んでいる。特に大きな事案はない。

飯島委員：暴力行為の状況について、生駒市は比較的発生件数が少ないが、内容に傾向はあるか。例えば、先生の早めの発見で発生を止められたものや、発生件数は少ないが、ひどい行為があった等、何か把握しているか。

花山課長：全ての学校で暴力行為が増えているわけではなく、特定の学年の特定の学級で増加している。その学級については、担任だけでなく学校規模で対応している。

飯島委員：その対応は昨年度からではなく、それ以前から継続的に行われているものか。

花山課長：その通りである。

中川委員：それぞれの項目で今まで以上に細かい調査が進んできて、教育委員会との連携も十分進められていると感じた。例えばいじめの認知件数でも、「冷やかしからかい」や「遊びのふりをして叩く」等の細かいことについても調査が行われており、そのような事案にも教育委員会が対応している様子がよく分かる。また不登校の子どもたちも何か発信していることがある

と思うので、子どもの心の中を知ることが大事だと思う。事務局の課長や指導主事の先生方が学校へ来て、話を聞くだけでも、解決の道筋が整ってくると思う。今後も相談しやすい環境を整え、学校の立場に立って相談を受け、解決に向けて対応してもらえればありがたい。

神澤委員：「いきいきほっとルーム」と「のびのびほっとルーム」の39名の利用者について、学年ごとに性別と年齢の傾向が分かれば教えてほしい。

花山課長：手元に資料がなく、今すぐお答えできない。

神澤委員：利用者数は増加傾向か。

花山課長：「いきいきほっとルーム」は年々増加傾向にある。「のびのびほっとルーム」は昨年度からの取組であるのでまだ示せない。

イノズ委員：不登校児童生徒数が過去最高であると全国ニュースで報道されており、気になっていたが、生駒市の数は全国ほど大きくなく、日頃の居場所作りの成果かと思う。本当にありがたく思っている。また、他市の市長のフリースクールに対する発言が話題になっていたが、小紫市長が発信されているフリースクールに関する内容も拝見した。様々な形での居場所や学びのスタイルの提供においても、やはり生駒市は他市と比べて様々なことを考えて提供し、機会が増えていると思う。今回の結果を見ても、今の方向性で良いのではないかと改めて再確認する機会となった。不登校の原因で、細かい部分まで調査し把握してもらっている点も良いと思っており、無気力や不安、また原因不明ということも実際あり得ることだと思う。また、友人関係のコミュニケーションに関わる原因は昔からあることだと思うが、スマホ等でのSNSのコミュニケーションが増え、対面のコミュニケーションよりも心無い言葉を言ってしまう傾向や、発言者にそのつもりはなくても悪く受け止められてしまうということが、自分の子どものケースを見ても往々にあるのだろうと思う。中学生は特にスマホの浸透度が高く、そこでのやり取りがコミュニケーションの大半になっているのではないと思うくらいである。スマホに対する心がけについては、家庭でもしっかりと子どもたちに伝えていかないといけないと思うが、スマホサミット等の学校現場で話し合う機会も今まで以上に増やしていければ、さらに良いと思うので検討してもらいたい。

伊藤委員：日頃から教育指導課が、事案が起こるたびに学校へ行き、原因究明から生徒との話し合いまで様々な対応をしていると聞いており、本当に苦労されていると思う。生駒市は幸いにして重大な事案はないとのことであるが、不登校児童生徒数は減っていない状況である。学校に原因がある場合もあるかもしれないが、やはり友達や家庭の中での不安やストレスが高いことが影響しているケースがかなりあると感じている。そのストレスの原因を学校教育で変えることは難しいが、カウンセリングの実施等で、親の安心感を高める努力を多くしていただいております、時間はかかるが良い方に向かえるように取り

組んでもらっているという実感もある。ただ、セミナー等を実施しても、大変な事情を抱えている家庭ほど参加できない傾向があるかと思う。そのような家庭には、カウンセリングが一番アウトリーチできる方法だが、カウンセリングに参加できない方にも声かけができるような方法があればと考えている。保護者の不安感を弱めるような、発達や子育ての専門家の講座やアンガーマネジメントの講座の内容等を「すぐーる」経由で情報提供すること、さらにそういう内容を短い文章で心に届くような形で発信ができれば良いのではないだろうか。家庭の経済状況やコロナ後の在宅勤務の増加等で、家庭内での緊張感が非常に高くなっている場合も子どもに影響があると思う。何か取り組みを考えてもらえたらと思う。

花山課長：委員がおっしゃる通りであると思っている。他の機関とも連携を取りながら進めていきたい。

吉尾委員：細部まで丁寧にに関わり初期対応に苦労してもらっている。トラブルに対して大人が関わることもとても大事だが、場合によっては子どもたち自身できちんとコミュニケーションを取って解決する経験を積ませてほしいと思う。9月の研修で他市町村の教育委員の方と話をする機会があり、仙台の方の市町村から「からかい等の軽い内容をいじめと認識していない子どもが非常に多かったのも、そのようないじめは駄目だというコマーシャルのような動画劇を学校単位で子どもたち自身に作ってもらい、入賞した学校の動画を楽天の球場で流した。」という話があった。子ども自身が演じる事で、疑似体験できた点が良いと思う。また、ある地域では「不登校の子どもを持つ保護者は孤独になる傾向にあるので、気軽に集まれるカフェを作った。同じ悩みを持つ保護者で話を共有することで少し心が落ち着いたようだった。」という話もあった。子どもたちの居場所をつくることも大事だが、今後は保護者のフォローも課題になってくるかと思う。大変多忙とは思いますが、取組みの一つとして検討してほしい。

○日程第3 報告第15号 臨時代理につき承認を求めることについて（令和5年生駒市議会第4回（9月）定例会提出議案の意見について）

・臨時代理につき承認を求めることについて（令和5年生駒市議会第4回（9月）定例会提出議案の意見について）、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p1～5>

（質疑）

飯島委員：給食費に関しては、材料費の高騰が原因かと思うが、3ページの教育総務費の生駒南小学校・中学校整備事業費で、補正額が当初予算の約1.5倍となっているが、これは値上がりによるものか、工事の設計のスケジュール変更によるものか。

山本課長：事業を進めていく中で、現在の校舎の劣化具合を調査する耐力度調査を事前に行う必要が出てきたので、そのための委託料である。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第4 報告第16号 令和5年生駒市議会第4回（9月）定例会提出議案の結果について

・令和5年生駒市議会第4回（9月）定例会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明

<参照：議案書p6>

（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 議案第25号 壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画の策定について

・壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画の策定について、大畑幼保こども園課長から説明

<参照：議案書p7～11>

（質疑）

伊藤委員：10ページの定員に関する記載について、3歳児・4歳児・5歳児は3年保育なので、同じ定員になるものだと思っていたが、3歳児が少ないのはなぜか。

大畑課長：小規模保育園が増えてきているが、一般的に保育園の確保が難しいという問題は3歳児までで起こりやすい。また、3歳児より上のクラスの定員が他の園で不足していることもあり、3才児の定員については少し増員で計上している。

伊藤委員：他の園との比較ではなく、認定こども園の3歳児と4歳児で20人の差がある理由をお聞きしたい。

松田次長：こども園なので、1クラスの定員数に違いがある。各学年2クラスという設定で考えているが、3歳児の1クラスの定員数は20人と少ないため数が少ない。

吉尾委員：現在、壱分幼稚園には通園バスがあると思うが、こども園になった際は通園バスの運用はあるか。

大畑課長：現状と同じような運用になる。範囲を見直すかもしれないが、通園バスは使用する予定をしている。

吉尾委員：通園バスは生駒市としてすごく評価されている取り組みだと思う。通園バスを使うことで、子どもたちが広範囲から来ることができることもメリット

だと思うが、やはり民間になって、長い距離を子どもたちが通うことには少し考慮してもらいたい。公立園であれば、必ず30分以内には着くようにしており、保育時間の確保もきちんとしてもらっているの、新しいこども園でも子どもたちの生活に支障がないようにしてもらいたい。また、通園バスを利用する子どもの保護者とのやり取りは大変である。直接話したら納得してもらえ、電話等での対応になってしまうと食い違いが生まれやすい。また、子どもの成長と共に、保護者も様々な経験をして成長していく。公立園では担任でも管理職でも、保護者の方と一緒に子育てを頑張っていくというスタンスで、取り組んできたつもりだ。保護者との信頼関係がきちんと築いていけるこども園になればと思っている。

原井教育長：この議案は継続審査となる。次回は11月に行う関係者説明会の内容を伝えると共に、そこでの意見から加筆修正した案を出させてもらうことになると思う。それ以外に次回までに事務局に準備してもらいたい資料や、質問等はあるか。

吉尾委員：9月から預かり保育が5時まで延びたが、現在の壱分幼稚園での預かり保育の利用状況を知りたい。こども園としてのニーズが高いということが分かればありがたい。

伊藤委員：法人の選定もこれからだとは思うが、協定書の雛形や骨子のようなものは既に考えているのか。

大畑課長：PTA会長からも同様の話があった。前々回の教育委員会で資料として広陵町の協定書を付けたが、おおよそそれに添って作成したいと考えている。まだ完成はしていないが、検討を始めている段階だ。

伊藤委員：完成品でなくても、検討中のものを近々提示してもらえると理解して良いか。

大畑課長：次回の関係者説明会で出てくる意見によるが、ある程度の集約できる意見が出てくるようであれば、次回の段階で案という形で提示できればと考えている。

審議結果 【継続審議】

○日程第6 その他

・令和5年11月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明（質疑）

飯島委員：行事予定のことではないが、地域クラブ活動体験イベントとして、ラグビー・レスリング・水泳をあげてもらっており、将来的には学校の部活動に生かせる取り組みだと思う。地域クラブ活動については、指導者のなり手が足りなくて、思い通りに開始できないという自治体もあると聞いたが、生駒市ではどうか。

西 課 長：確かに指導者の人材確保は、最大の課題である。学校の先生の方にも声をかけさせてもらうと共に、競技団体数が多い生駒市のスポーツ協会や、各種の種目をやっているスポーツクラブでも指導者を派遣している。加えて、生駒市ではスポーツリーダーバンク制度を設けており、県でもそのような登録制度を設けることを予定しているので、それも活用していきたい。

○閉会宣告

午前10時25分 閉会